

滋賀県立高等学校再編計画（案）説明会 意見概要 ＜サントピア水口＞

- 日 時 平成24年(2012年)11月11日(日) 14:00~16:00
- 場 所 サントピア水口 甲賀市共同福祉施設（県民一般対象:参加者47名）
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 説明会やパブコメの意見を集約した後、どのように進めるのか。再編計画の策定は、何で知らされるのか。ホームページか、再度説明会があるのか教えてほしい。
- 信楽高校を守る会から育てる会に変えた。信楽高校がより発展する方向でバックアップしていきたい。分校化を取り下げてもらって感謝している。
- 改編は平成26年度からスタートするが、あまり時間がない。どのように進めていくのか。教育委員会の中に準備室を立ち上げるのか、信楽高校のスタッフでやるのか教えてほしい。
- 地域が分担してやるべきことが沢山ある。信楽焼の青年部も入って考えたいと言っている。
- 県も甲賀市も色々考えているが、点と点になっている。点を線に結び付けて、発展させていく必要がある。県、市、地域が一体となり、キャッチボールができる組織を作ってほしい。
- 県外からの生徒の受け入れ態勢については、信楽は障害者の受け入れを50年前から行っており、町民は受け入れには慣れており、理解がある。そういう意味で、地域で解決できる部分はあるが、市や県にお願いしないといけない部分もある。キャッチボールができる体制をつくってほしい。
- 生まれ変わった信楽高校として、特色ある学校に育てなければいけないと地域では思っている。そのためには、目的意識を持った生徒をどのように集めるか、入ってきた生徒にどのような力をつけるかが大事である。上級学校との接続の中で関連大学で学び、信楽の地場産業やまちづくりに寄与するよう就職やIターンで帰って来てほしい。そういう面で信楽高校を育てていけばすごい学校になると思う。
- 学校と地域との連携など、マネジメントできる若い人材を校長に登用してほしい。
- 先生は忙しい。さらに校長が今後、全てマネジメントするのは酷である。校長だと教育委員会からのトップダウンになるし、客観的に見るができないのではないかと。自由度が高い形にしてほしい。
- 特別支援学級の生徒が、中学校3年生になった時に、行けるところはどこか不安を持つ保護者が多い。養護学校の高等部、高等養護学校、信楽学園、授産施設の選択肢しかない。信楽の町は、昔からノーマライゼーション、福祉の町である。5年後に検証とあるが、福祉や特別支援学校を組み込む素地が信楽にはある。
- 栗東高校に美術科ができてから、信楽高校のデザイン科へ来る生徒が少なくなった。信楽には私学だが中等教育学校ができた。そこと連携して信楽が発展できる学科をつくれるのではないかと。
- 信楽高校に社会人などで興味のある人を集めて、専門コースをつくってはどうか。
- 甲南高校との連携について、もう少し具体的に説明してほしい。
- 再編の効果を確認するには、5年では短い。

- 再編から5年後の検証、必要な対応の検討とは、どういう意味か。
- 能登川高校全日制課程は、どのように変わるのか。7、8時限の併修はどういう意味を持つのかイメージできない。
- 単位制を全面に打ち出している高校は多くはない。単位制といいながら、一定の枠を設けているところがほとんどである。
- 全日制と定時制を併設する必然性が分からない。メリットがあまり考えられない。
- 高校再編は、財政状況とは関係ないとのことだが、能登川高校でしようとしている学校を良い学校にするには、もっと予算措置しないといけない。
- 悪く解釈すると、単位数の少ない教科を全日制と定時制で掛け持ちさせるなど、教職員の時間外勤務が増加するのではないかと懸念する。そんなことにならないようにしてほしい。
- 全日制と定時制の部活動や生徒会活動が、どのようになるのかイメージできない。
- 中学生が能登川高校を選ぶ時不安があると思うので、もっと明確なビジョンを打ち出してほしい。
- SSH(スーパーサイエンスハイスクール)との連携や新しい英語教育は、すべての地域に書かれているが、具体的な内容を説明してほしい。
- 石部高校への三雲養護学校分教室の設置について、説明会に何度か出席したが、これほどの生徒の増加が予測できなかったので、中身はまだ決まっていないと言われ、不安を感じている。小中学校の特別支援学級の児童生徒が増加していくのは確実だと思う。長期的な見通しはどのように考えているのか。
- ノーマライゼーションスクールを実行するには、教職員の人数、教育内容などが心配。三雲養護学校では遊具も足りず、個人の寄付に頼っている状況。教育が充実していない。高校への併置について、新たな問題点があると思うが、どのような検討をしているのか。
- 高校の存続も重要だが、中学校では先生の数が少なく、苦勞されている。高校に入るために中学校でどういう教育を行うのが大事。いじめに代表されるように、先生の目が行き届かない。ゆとりある教育活動ができるように教員を増員してほしい。